

奈良にゆかりのある遺伝資源を保存するジーンバンクの開設について

～ 地域で受け継がれてきた農作物の種子を集めています！ ～

奈良県農業研究開発センターでは、平成28年度に、「ジーンバンク」を大和野菜研究センター内に設置し、奈良にゆかりのある遺伝資源の収集、保存、特性調査などの活動を開始しています。

1. 背景と目的

本県には、地域に根ざし、その土地の食文化とも融合しながら受け継がれてきた在来の農作物が数多く存在します。これらは貴重な遺伝資源ですが、市販品種と比較すると栽培が困難であったり、市場流通に向かなかつたりするため、栽培が途絶えてしまう危機に瀕しているものも多いのが現状です。そこで、今は作られていない品種を復活させたり、新品種を生み出したりするために、その元となる遺伝資源を収集・保存する施設「ジーンバンク」を設置しました。

2. ジーンバンク業務の概要

① 遺伝資源の収集

県内4カ所に設置されている農林振興事務所と連携して、地域で古くから自家採種されている農作物の情報を集めています。寄せられた情報をもとに、直接、採種されている方から入手先やどのように利用してきたか等を聞き取り調査し、ジーンバンクの趣旨に賛同を得られた場合には種子を提供していただいています。

② 遺伝資源の保存

受け入れた種子は、定期的に発芽率調査を行い、発芽率が低下した場合は栽培して新しい種子を採り、更新しています。種子を長期間保つために、専用の容器に封入し、温度5℃、相対湿度30%に制御した施設内で保管しています(図1)。

③ 遺伝資源の特性調査

遺伝資源の活用を図るためには、どのような特徴をもつ品種であるか調査する必要があります。これまでに、スイカ、マクワ、トウガラシ、ツケナ類等の特性を調査してきました(図2)。



図1 大和野菜研究センター内の保存施設(左)と種子保存容器(右)

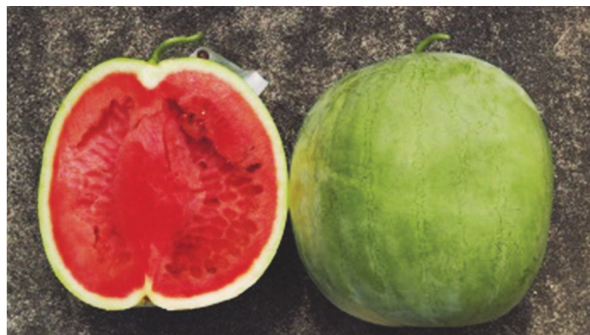


図2 大和スイカ‘大和4号’の特性調査

3. 遺伝資源情報の提供のお願い

遺伝資源の収集は、県民の皆様の情報が頼りです。自家採種してきた特徴ある農作物の種子をお持ちでしたら、大和野菜研究センターまでご一報いただくと幸いです。

【遺伝資源情報の連絡先】

大和野菜研究センター遺伝資源保存ユニット
奈良県宇陀市榛原三宮寺125(担当:佐野)
TEL:0745-82-2340 FAX:0745-82-7841

(遺伝資源保存ユニット 佐野 太郎)